

野有並木松十有餘町稱安濃松原者是乎相傳曰昔參宮人到于此倦松原長途問向來里程土人戲曰此當十日行又長野並木七日行也旅人忙然掛一貫錢於松枝伏拜神宮方還國而他人見彼錢以爲蟠蛇而無敢取之者既而又知其欺復參宮見之錢所在如故名其松曰錢掛松

〔伊勢參宮名所圖會〕二豐久野の 惠日堂記に云雄略帝の御時丹波國より豐受大明神を勢州へ遷し奉る時鈴鹿の神戸よりして此野に行宮を作り休らはせ給ふ御跡なれば等由氣野とはいふ也トヨケトユケは通音即今の街道の二町ばかり右に其古道あり往古は一里ばかりの松ばやしなりといへり

〔伊勢紀行〕とよく野はるくとわけ侍るとて

君が代を先こそあふげ廣きのへ末遙なる道に出ても

遠江國引馬野

〔類聚名物考 地理二十〕引馬野 ひくまの 遠江國敷智郡引馬野万葉別記

遠江國敷智郡濱松郷の驛を昔は引馬の宿といへりし事阿佛尼の紀行にも見えたりこゝにある城をも近比まで引馬の城といひそのかたはらの坂をも引馬坂といひ傳へたりその坂をのぼりてまばらく行ば野に出るこの野を昔は引馬野といへり今は三方が原といふ東西三里半有り西北は參河の國に交れり

〔萬葉集一 雜歌〕二年〇大壬寅太上天皇統幸參河國時歌

引馬野爾仁保布榛原入亂衣爾保波勢多鼻能知師爾

右一首長忌寸與鷹

〔十六夜日記〕こよひはひくまのまゆくといふところにとまるこのところのおほかたの名は、はま松とぞいひしまたしといひしばかりの人々などもすむ所なり

〔武德編年集成〕十永祿十二年五月七日神君〇徳川家康引間ノ城へ歸リ玉ヒ城ノ名ヲ濱松ト稱スベキ由命セラレ近臣ノ外ハ暇賜リ各食邑ニ歸リ休息ス